

igusalabo.com



寝ござ・花ござの取り扱いについて

天然素材であるい草のシーツを安心して永くご利用いただくための3つのポイント。

- 初めてご使用する際は乾いた布で軽く乾拭きをしてご使用下さい。
- 定期的に「陰干し」か「天日干し」を行い、乾いた状態でご使用ください。
- シーズンオフのお片付けの際には、天日干しを行ったあと、ビニール袋等には入れず湿度の低い暗い場所で保管してください。

寝ござの縦割れ防止について

シーツとしてご使用いただく倉敷産のい草はしなやかで腰の強い性質が特徴ですが、ベッドの横にズレ、角などで過度に力が加わるとい草が折れて縦割れを起こしてしまうことがあります。ベッドの中心でご使用いただくことで安心してご利用いただけます。

[Address]

710-0807
岡山県倉敷市西阿知町 1007-33
E-mail : info@igusalabo.com

[Onlin Shop]

-BASE- IGUSALABO



[Partner]

Photo by Takaya Mori

[SNS]

#igusalabo #IGUSALABO

イグサラボの寝ござ

倉敷産い草シーツ

- 無染土い草使用
- 縦糸233本の花ござ専用織機で製織



天然の草原で心地よい眠りを

Pure japan life for IGUSA

布団の上でも、ヘッドの上でも
柔らかく体にフィットする。

幅
88cm

サイズ

長さ
190cm

長さを190cmにすることで、
ベッドや布団でもズレにくく朝まで快適にご使用いただけます。

※天然素材での製織していますので、多少サイズに誤差が生じます。

寝ごごの特徴

自家栽培い草：岡山3号

倉敷市庄の隣接する田んぼのない場所で、減農薬管理で栽培育成をしています。い草は5月から7月にかけて生育し、人の背丈ほどになります。岡山3号という品種は中太種で中の海綿体も詰まっており、とてもしなやかない草です。

無染土い草

人の肌に長い時間触れる寝ごごだからこそ、より自然状態で使ってもらいたい。そういう思いから、色彩をよくするために行われる「泥染」工程を行っておりません。パサつきもなく、草原に寝そべるような感覚をお試しください。

花ごご発祥の地倉敷の専用織機で織込み

倉敷生まれの「花ごご」その特徴は畳よりもはるかに多い縦糸の数です。この土地で開発され進化を続けた織機は、手織の風合いを大切に、1本1本個性の違うい草を緻密に織り込んでいきます。花ごご専用の織機はい草の端まで使用し耳組を施します。端を切らないことから周囲を畳べりなどでの縫製が必要なく、い草のみで完結することができます。本来、柄を出すために開発された緻密に動く織機で寝るためのシートに最適な「目積織り」での一番シンプルで柔らかい織り方を起用しました。

い草の寝ごごについて

寝ごごは、湿度が高く蒸し暑い西日本で古くから涼感を得られる天然素材として愛用されていました。

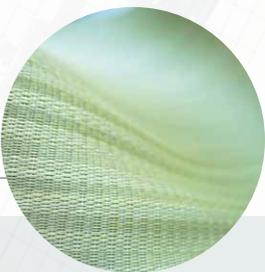
い草は吸湿作用が強く、寝ている際の背中の中のムレを軽減してくれます。その他にも香りやサラッとした肌触りなど、睡眠時を快適にしてくれる要素が整っています。

私たちの寝ごごはお客様に直接お届けできるため、保管の期間も短く、鮮度の高

い状態でお渡すことができます。そのため、色味を長期保つための加工が必要なく、より自然ない草の風合いを体感いただけます。

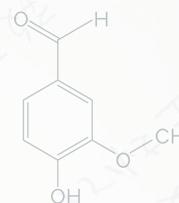
い草の品種も岡山の風土で改良され、花ごごに適したしなやかでふっくらしたい草を使用しています。

233本という畳の倍以上の縦糸を使用することでシートとして扱っていただけるほどの柔らかさを実現しました。



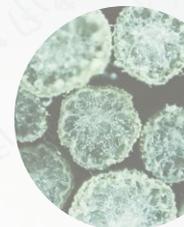
い草という素材 海綿体線維がもつ様々なチカラ

い草の表面はツルツルとしたガラス質で汚れに強く、中の海綿体には空気中の毒素を吸着する作用がある他、天然素材特有の「呼吸」をするため、湿度が高い時には湿気を吸い、乾燥時には溜め込んだ水分を外に吐き出すなど、天然の湿度調整機能も兼ね揃えています。その他にも、香りには【フィトンチッド】【バニリン】【α-シペロン】【ジヒドロアクチニジオリド】などの成分が含まれており、リラックス効果や、集中力向上、消臭効果などの手助けをします。



代表 今吉俊文

明治30年創業の、民藝花菱の製造を営む家に生まれ、2007年よりい草栽培に取り組む、2018年「IGUSA LABO」を設立、地元西阿知町の花ゴザの職人たちと技術や歴史の研究をすることで共に、い草のある暮らしを提案し続けています。



い草の栽培

11月

【苗仕立て】

12月の苗植えにおいて苗株を適切なサイズに株分けしていきます。

12月

【苗植え】

水田に一株づつ人の手で植えていきます。寒い時期に植えることで根が深く張り、長く伸びるい草の準備ができます。

3月

【水管理】

暖かくなり、水管理を行うことで、い草の芽吹きを促します。

4月

【肥料管理】

7月の刈り取りに向け、計画した肥料管理が始まります。

5月

【先刈り：網掛け】

腰ほどまでに伸びたい草の先を刈り込み、新芽の発芽を促します。その後田んぼ一面に倒伏防止の網を張ります。

6月

【編上げ】

い草の伸長に合わせて、網を適切な高さに刈り取りまで都度調整します。

7月

【刈り取り】

人の丈まで伸びたい草の成熟したタイミングを見極めて刈り取りを始めます。

【乾燥】

無染土い草の乾燥は低温にて丁寧に乾燥させます。そうすることでい草の本来のツヤとしなやかさを残すことができます。

